

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 5 区分

【発行日】平成 17 年 10 月 27 日 (2005.10.27)

【公開番号】特開 2003-138480 (P2003-138480A)

【公開日】平成 15 年 5 月 14 日 (2003.5.14)

【出願番号】特願 2002-216650 (P2002-216650)

【国際特許分類第 7 版】

D 0 6 M 13/256

D 0 6 M 13/463

D 0 6 M 15/53

【F I】

D 0 6 M 13/256

D 0 6 M 13/463

D 0 6 M 15/53

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 7 月 22 日 (2005.7.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 5】

原則として適する有機溶剤はあらゆる一価または多価アルコールである。1 ~ 4 個の炭素原子を有するアルコール、例えばメタノール、エタノール、プロパノール、イソプロパノール、直鎖状のおよび分岐したブタノール、グリセロールおよび上記アルコールの混合物が有利である。他の有利なアルコールには 2 0 0 0 以下の相対分子質量を有するポリエチレングリコール類である。特に 2 0 0 ~ 6 0 0 の相対分子質量を有するポリエチレングリコールを 4 5 重量 % までの量で、および 4 0 0 から 6 0 0 の相対分子質量を有するポリエチレングリコールを 5 から 2 5 重量 % の量で使用するのが好ましい。エチレングリコールの低級アルキルエーテル、プロピレングリコールの低級アルキルエーテル、プロピレングリコール、ポリエチレングリコールおよびポリプロピレングリコールも使用することができる。一価アルコール、例えばエタノールとポリエチレングリコールとで 0 . 5 : 1 ~ 1 . 2 : 1 の割合で組成される溶剤混合物が特に有利である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 7】

有利な増粘剤には水素化ひまし油、長鎖脂肪酸の塩、特に 0 ~ 5 重量 %、なかでも 0 . 5 ~ 2 重量 % の量のステアリン酸ナトリウム、カリウム、アルミニウム、マグネシウムおよびチタニウムまたはベヘン酸のナトリウムおよび / またはカリウム、および多糖類、特にキサンタンガム、グアグア、寒天、アルギン酸塩およびチロース (tyloses)、カルボキシメチルセルロースおよびヒドロキシエチルセルロース、および脂肪酸の比較的に高分子量のポリエチレングリコールモノ - および - ジエステル、ポリアクリレート類、ポリビニルアルコールおよびポリビニルピロリドン、およびまた電解質、例えば塩化ナトリウムおよび塩化アンモニウムがある。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

適する酵素にはプロテアーゼ、リパーゼ、アミラーゼおよびそれらの混合物よりなる群から選ばれるものがある。その割合は0.2～1重量%である。酵素は担体物質に吸着されていてもおよび被覆物質中に埋め込まれていてもよい。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

IV) 液体柔軟化剤:

A) 26.3重量%の C_{12}/C_{14} -アルキルジメチルヒドロキシエチルアンモニウムクロライド(40% a.m.)(Praepagen HY^(R))、

B) 11.2重量%の C_{12}/C_{18} -アルキルジメチルヒドロキシエチルアンモニウムクロライド(40% a.m.)、

C) 26.3重量%の C_{16}/C_{18} -アルキル硫酸ナトリウム(19% a.m.)(Flotino r S072^(R))、

D) 全部で100%とする残量の水

E) 香料: 適量

F) 着色剤: 適量

G) 保存剤: 適量

製造:

I 室温でA、CおよびDを混合する。

II Bを添加しそして混合する。

III E、FおよびGを添加しそして混合する。